

事務所通信 リソース

6月号 VOL. 36

税理士法人 中央総合会計

〒070-0037

旭川市7条通13丁目 59 番地 4

TEL : 0166-25-4131 0166-23-0010

FAX : 0166-25-4132 0166-23-7543

URL : <http://csk-i.com/>

E-mail : cyuou@csk-i.com



いつもお世話になります。

人から忌み嫌われる存在のたえでも使われる「ゲジゲジ」は「ゲジ(蛭)」の俗称で、夏の季語でもあります。多数の足が複雑に動く姿は不気味ですが、実は小さな害虫を食べてくれる益虫です。

「見た目の大切さ」と「見た目で判断する愚かさ」を、出くわしたゲジゲジに教えられました。

平成29年税制改正贈与税(1)について

緊急経済対策の一環として、教育資金の一括贈与の非課税制度が創設されました。

① 制度概要

30歳未満の受贈者の教育資金とするため、その直系尊属が金銭等を拠出し、信託銀行等の金融機関に信託等した場合には、受贈者1人につき1,500万円までは贈与税が課税されず、つまり非課税となります。

教育資金とは、学校等に支払われる入学金や授業料等、学校以外の塾や習い事に使われる費用があたりません。

② 申告、終了時の課税

受贈者は、最初に教育資金非課税申告書を金融機関経由で、所轄の税務署長に提出します。

教育資金が必要になると、受贈者は、金融機関の口座から資金を引出しますが、それに充てたことを証明する書類を、金融機関に提出する義務があります。

受贈者が30歳に達した日の翌年3月15日後6年を経過する日まで、これらの書類や記録を保存する義務があります。

受贈者が30歳に達した場合には、金融機関は調書を受贈者の所轄税務署長に提出し、1,500万の非課税拠出額に残額があれば、受贈者が30歳に達した日に贈与があったものとして贈与税が課税されます。



クールビズ実施のお知らせ

今年も当事務所ではクールビズ(具体的にはノーネクタイ等)を実施することと致しました。

期間は、6月～9月末までといたします。

なお、クールビズへの対応は職員個々の判断にまかせております。

各人毎又は、月日毎に異なる場合があります。

なにとぞ、趣旨をご理解の上、ご了承お願い申し上げます。

第7回

職員紹介

かずた さとる
數田 悟



はじめまして。

數田 悟と申します。

普段使わない難しい漢字なのでよく「やぶた」と呼ばれますが、正しくは「かずた」ですので間違わないでくださいね。

生まれは赤平市です。人口も少なく、観光できる場所もあまりありませんがお城があるので、興味がある方は近くを通る際に足を運んでみてください。

高校卒業時まで赤平で暮らし、札幌、江別、赤平、と移り住み、昨年の5月から旭川市民となり、9月から当事務所の職員となりました。

旭川にもやっと慣れてきたので、色々な場所を探索していきたいと思っています。お会いした時にはおすすめスポットやお店を教えていただくと嬉しいです。

仕事に関しては、高校、専門学校と簿記の勉強はしていましたが、税務の事に関してはまだまだわからないことだらけで、先輩方に教えていただいたり、たまに怒られたり、毎日充実した日々を送っています。

早く皆様のお役に立てるよう、皆さまに安心を与えられるように頑張っていきたいと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。

【やり続けるだけの信念はあるか】

「カンヌ国際映画祭」に、数年前から「アトリエ」という部門が新設されました。

企画段階のシナリオを約 15 本選び、その監督やプロデューサーをカンヌに招待し、映画祭の期間中に様々な出会いを用意して映画制作のための最高のチャンスを提供する若手監督の支援です。企画段階のシナリオは世界中に何万本とあります。世界的な映画祭で 15 本に選ばれるとはどういうことか、もうお分かりでしょう。

今年のアトリエに招待された監督の1人はニューヨーク在住の日本人男性でした。

二十歳そこそこで渡米してから四半世紀以上、寝ても覚めても映画のことはばかり考えて奔走した彼は、シビアな映画業界の仕組みに何度も煮え湯を飲まされました。元々役者だった彼は、あの唐沢寿明さんと同期です。お互いに売れなかった時代、夢を叶えるためには何でもやった唐沢さんが大物俳優と呼ばれるようになったとき、まだ何者でもなかった彼は改めて腹をくくったそうです。命を賭けている映画を生活の糧にしたいくない。だから自分の作品を世に出して、映画監督として認められるまでは絶対に死ねない。

選ばれたシナリオは、彼が 15 年前に書いたものでした。

何十人にプレゼンしても結局話がまとまらず、こうなったら全財産を突っ込んで自己資金で作ろうと撮影に踏み切ったのが昨年のこと。その後、編集作業に追われていたときに届いた朗報が「カンヌご招待」だったのです。これを機に彼の映画人生は大きく変化していくでしょう。

成功者に成功した理由を尋ねると、多くの人が同じことを言います。「成功するまでやめなかったから」本当に成し遂げたいなら成し遂げるまで続けることです。

毎日毎日そのことを真剣に考えて、今できることをやってみる。

これは物事の大小によりません。できるまでやる。

挫折してもやり続ける。だからこそ信念が問われるのでしょう。

